

## 大和証券グループのCSR

## 重要課題 1

金融機能を活用して  
持続可能な社会に貢献する

写真提供/BRAC

## 考え方・基本姿勢

気候変動に代表される環境問題、また貧富の差の拡大など、私たちが暮らす社会は今、持続可能性を脅かすさまざまな問題に直面しています。

そのなかで、企業に対しても、ただ市場の論理に従い利益のみを追求するのではなく、社会全体の利益を目指して行動することが、強く求められるようになりました。

金融はこうした社会変革の動きを側面からサポートすることができます。

そこで大和証券グループは、インパクト・インベストメント※商品—その社会的意義が投資家にも明らかな金融商品—の開発・販売などを通して、さまざまな社会的課題の解決につながるお金の流れを促す努力をしています。

※インパクト・インベストメント…貧困や環境など社会的課題の解決を図ると同時に、経済的な利益も生み出す投資のこと

## インパクト・インベストメント型債券における取組み

## ワクチン債 &lt;発行体:国際金融ファシリティ(IFFI)&gt;

開発途上国の子どもたちにワクチンを提供する資金を調達するための債券。日本の投資家は、ワクチン債への投資を通じて開発途上国(世界70カ国以上)の子どもたちのためのワクチン普及活動に貢献することができます。

## &lt;発行日および発行額&gt;

- ・2008年3月19日/約200億円
- ・2009年2月20日/約400億円
- ・2010年3月24日/約300億円

## ■ ワクチン債の仕組み

アジア・アフリカをはじめとする開発途上国では、毎年230万人もの子どもたちが、予防可能な感染症のために命を落としています。

このような問題解決のため、2000年に開発途上国の子どもたちに予防接種を実施する世界レベルの官民パートナーシップ「GAVIアライアンス(ワクチン予防接種世界同盟)」が設立されました。開発途上国の子どもたちに対する予防接種はGAVIアライアンスの国際金融調達機関である、「IFFI(予防接種のための国際金融ファシリティ)」への各国政府によって約束された寄付金で支えられており、各国政府の寄付金は総額53億米ドルで、2026年まで長期にわたり払い込まれます。

一方、ワクチンは子どもたちの尊い命が失われようとしている「今」まさに必要とされているものです。そこで、IFFIは「ワクチン債」を発行することによって、加盟国から約束された寄付金を前倒して

借り入れ、今必要とされている予防接種のための資金を調達できる仕組みをつくりました。IFFImは2015年までに40億米ドルを「ワクチン債」によって調達する予定であり、それによって500万人の子どもたちの命が救われ500万人を超える成人の早期死亡を未然に防ぐことができると推定されています。

### ワールドクールボンド <発行体:国際復興開発銀行>

京都議定書にもとづく排出権取引の仕組みを活用した債券で、本債券の仕組みを世界銀行と共同で開発。特定の温室効果ガス削減プロジェクトの排出削減実績と排出権価格等にクーポンが連動しており、投資家はこのプロジェクトに間接的に参加することができます。

<発行日および発行額> ・2008年6月26日/約30億円

### マイクロファイナンス・ボンド <発行体:国際金融公社/欧州復興開発銀行>

開発途上国の貧困層に対して小規模金融サービスを提供し経済的自立を促すマイクロファイナンス事業に必要な資金を調達するための債券。

<発行日および発行額> ・2009年11月20日/約250億  
・2010年6月15日/約90億

マイクロファイナンス特集 <http://www.daiwa.jp/microfinance/>

### グリーン世銀債 <発行体:国際復興開発銀行>

加盟国における特定の基準を満たした低炭素化事業を支援する債券。投資家はグリーン世銀債への投資を通じて地球温暖化問題への取組みに寄与することができます。

<発行日および発行額> ・2010年2月3日/約100億円

グリーン世銀債特集 <http://www.daiwa.jp/green/index.html>

### ウォーター・ボンド <発行体:アジア開発銀行>

アジア・太平洋地域には、安全な飲み水へのアクセスを持たない人々が約5億人いるとされており、水道インフラの整備および水資源管理政策の改善が喫緊の課題。ウォーター・ボンドは、こうした課題解決に向けたプロジェクトをサポートすることができます。

<発行日および発行額> ・2010年4月16日/約600億円

ウォーター・ボンド特集 <http://www.daiwa.jp/water/index.html>

### エコロジー・ボンド <発行体:欧州投資銀行>

再生可能エネルギーおよびエネルギー効率化に関連した事業を支援するもの。欧州投資銀行は過去3年間で、エコロジー・ボンドの起債を通じて総額約10億ユーロ相当の資金を国際資本市場から調達してきた実績があります。

<発行日および発行額> ・2010年5月21日/約330億円

エコロジー・ボンド特集 <http://www.daiwa.jp/ecology/index.html>

## エコファンドの取組み

### ダイワ／ブラックロック グリーン・ニューエネルギー・ファンド

2009年8月、大和証券投資信託委託は「ダイワ／ブラックロック グリーン・ニューエネルギー・ファンド」を設定しました。

当ファンドは、代替エネルギーや環境分野への投資により、短期的には雇用創出や景気刺激を図り、長期的には環境への負担を削減するための産業構造・社会構造の変革をめざす、グリーン・ニューディール政策の中心的テーマである「代替エネルギー分野」に関連する株式への投資を行います。再生可能エネルギーなど地球環境に負荷の少ないエネルギーの普及、新技術の促進につながります。

＜設定日および設定日の純資産総額＞ 2009年8月26日/約170億円

ダイワ／ブラックロック グリーン・ニューエネルギー・ファンド

[http://www.daiwa-am.co.jp/funds/detail/detail\\_top.php?code=4757](http://www.daiwa-am.co.jp/funds/detail/detail_top.php?code=4757)



### 環境ビジネス日本株オープン

2009年6月、大和住銀投信投資顧問は、代替エネルギーの開発やエネルギーの効率化、汚染浄化といった環境対策、環境インフラなどの環境関連技術を有する日本企業を対象として運用を行う、「環境ビジネス日本株オープン」を設定しました。

従来のエコファンドは環境への配慮や環境問題への取組みなど積極的に行い社会的責任を果たす企業を投資対象としていましたが、当ファンドは代替エネルギーの開発や汚染浄化など、環境問題そのものをビジネスの対象として手がける企業を投資対象としています。

日本には、環境ビジネスに対する強い取組み姿勢をもつ企業が多くあり、また国際特許の出願件数も、欧米を圧倒しています。今後世界的に拡大するであろう環境ビジネスのチャンスを逃さずに、当ファンドを通して国内産業の発展と、環境技術の普及に貢献したいと考えています。

＜設定日および設定日の純資産総額＞ 2009年6月26日/約6億円

環境ビジネス日本株オープン

[http://www.daiwasbi.co.jp/products/search/fund\\_data/fund\\_data.php?code=22311096](http://www.daiwasbi.co.jp/products/search/fund_data/fund_data.php?code=22311096)

